

『新しい未来を始動させる。』

株式会社東芝

東北支社長 吉川 保志



東北と東芝と

DX（デジタルトランスフォーメーション）

株式会社東芝 東北支社は、1916年に東京電気株式会社 仙台出張所としてその歴史は始まり、以来105年超にわたり数々の先進的な製品を納入し、東北各地で地域の皆様に支えられ、ともに成長して参りました。特に発電設備や電力流通設備等のエネルギーインフラ、上下水道や道路、防災、放送に関わる社会インフラ分野で東北各地の社会課題の解決に取り組んで参りました。

現在、東芝グループは「人と、地球の、明日のために。」という経営理念のもとに「デジタル化を通じて、カーボンニュートラル・サーキュラーエコノミーの実現に貢献」することを目指す姿として、CPS^{*}分野での新たな技術開発およびサービス開発を進めています。東北地区においても発電事業者向けプラント監視ソフトウェア EtaPROTMなどのデジタルサービスの提供を始めています。

東北活性化研究センターでは、デジタル技術活用による自律的な地域経済の構築が重要であると提唱されております。そこで今回は、東芝グループが近年特に力を入れて取り組んでいるDXやデータビジネスの一つである電子レシートサービス「スマートレシート[®]」について、その将来性や地域活性化への活用をご紹介しますと思います。

「スマートレシート[®]」とは

東芝グループの1社である東芝テック株式会社が小売事業者様とともに現在普及を図っているスマートレシートとはお客様が会計をする際に、レジでレシート印字データそのものを電子化してご提供することができるシステムです。消費者はスマートレシートのアプリを使うことで、電子レシートの閲覧、集計、レシートデータの出力の他、対象店舗のキャンペーンの応募やクーポンの利用を行うことができます。つまり、捨てない・消えない・無くさないスマートフォンでいつでもレシートを便利に活用できる仕組みです。事業者側のお店にとっても、レシートの電子化は、「用紙の削減」と「費用の削減」の効果があり、加えて、デジタル販促の活用や、コロナ感染予防としてレシートの手渡しによる物理的接触の低減などにも効果があります。

東北地区では、現在約830店舗でスマートレシートを使用することができます。

東芝のデータビジネスへの取り組み

さらに、東芝データ株式会社では、スマートレシートから得られた購買統計データを活用しようとしています。リアルタイムに取得される購買情報を活用した高度なマーケティングや、広告による潜在ニーズの分析など、地域の小売

店舗であってもスマートレシートのインフラを最大限に生かした DX の実現を可能にします。例えば、スマートレシートアプリ上でデジタルクーポンの配信や、スタンプカードやキャンペーンの機能を提供することで、中小の小売店でもデジタル施策に取り組みやすい環境を提供しています。また、個人向けには食のデータとの掛け合わせによる健康サポートサービスの展開なども検討しています。スマートレシートから得られる購買データを活用し、お客様の嗜好に合わせたレシピ提案や、カロリーや栄養素を掛け合わせて生活習慣病予防のサポートに貢献するといった、よりパーソナライズ化されたサービスの提供を目指しています。

地域活性化への取り組み

東北地区では、会津若松市でスマートレシートと TIS 株式会社様の会津財布*との連携を図ることにより、地域の面的な購買データを活用し、店舗間の相互送客や地域イベントでの店舗回遊などの地域活性化にもつなげていこうとしています。さらには、混雑する時間帯を避けて来店を促すクーポンを発行するなど、With/After コロナの社会環境においても利用者が安心して買い物ができるような仕組みを検討しています。

スマートレシートは、人口減少や高齢化が進む東北地区において、地域の様々なデータを結び付けることで、産業をはじめとした地域の活力維持や地域ごとの特性に合ったサービスへの活用など大きな可能性を秘めているものだと考えています。そして、地域のデータがたくさんつながるほど、より活用できる範囲も広がります。まずは皆さんも、お得で便利なおうえに、東北の地域活性化につながるスマートレシートのアプリを是非お手元のスマホにダウンロードして使ってみませんか…？

新しい未来を始動させる。

今回のタイトルである「新しい未来を始動させる。」は私ども東芝グループの存在意義です。その前文の一部には、「昨日まで想像もできなかった未来を現実のものにする。」という一文があります。東芝グループでは DX のその先の未来、量子社会の到来、量子技術が拓くデジタル世界に向けて研究開発・実商用化を推進しています。東北地区においても量子暗号通信の実証実験を行っています。東北から新しい未来を始動できるように、私にとっても何かのご縁ができたこの地で東芝グループの存在意義が発揮できるよう力を尽くしつつ、東北での生活も楽しんでいきたいと思えます。

《用語説明》

※CPS（サイバーフィジカルシステム）とは、実世界（フィジカル）におけるデータを収集し、サイバー世界でデジタル技術などを用いて分析したり、活用しやすい情報や知識とし、それをフィジカル側にフィードバックすることで、付加価値を創造する仕組みです。

※会津財布：TIS 株式会社様が開発・サービス提供している会津財布は会津地域で使える地域の便利な生活アプリです。地域独自のコンテンツやお得なクーポンなどを配信し、地域の楽しいイベントや生活に便利なサービスにつながり、電子レシート、支払いをこれ一つで使えるスマートフォンお財布アプリです。



(上記 QR コード)